

様式3 実践事例

南大隅町立神山小学校 第4学年

【授業実践のポイント】

- ① 意見の交流・深化を図るために、自身の経験を語る「エピソード活動」や「心のカード」を基に交流する場を設定した。
- ② 生活への実践につなげるために、「心のカード」を教室に掲示し、いつでも授業の振り返りことができるようにした。

1 主題名

だれに対しても [C(13)公平、公正、社会正義]

(1) 教材名

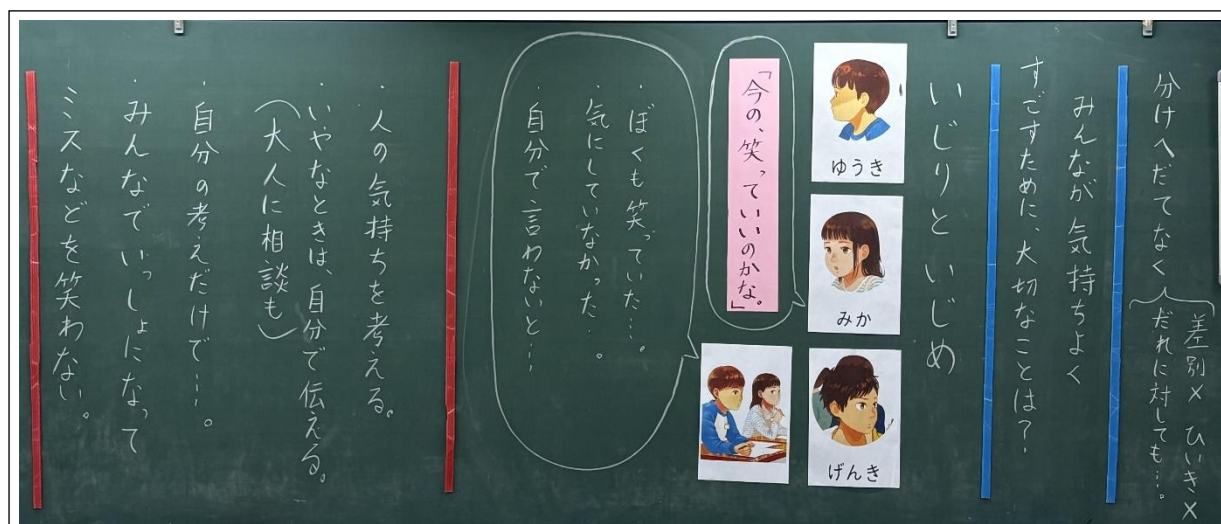
いじりといじめ（日本文教出版「小学道徳4 生きる力」）

(2) 本時のねらい

「いじり」と「いじめ」について考えることを通して、「いじり」が「いじめ」につながることや、偏見や差別を背景とした言動を改めることが、よりよい集団づくりにつながることに気付き、誰に対しても分け隔てのない、みんなが気持ちよく過ごせる集団をつくろうとする心情や態度を育てる。

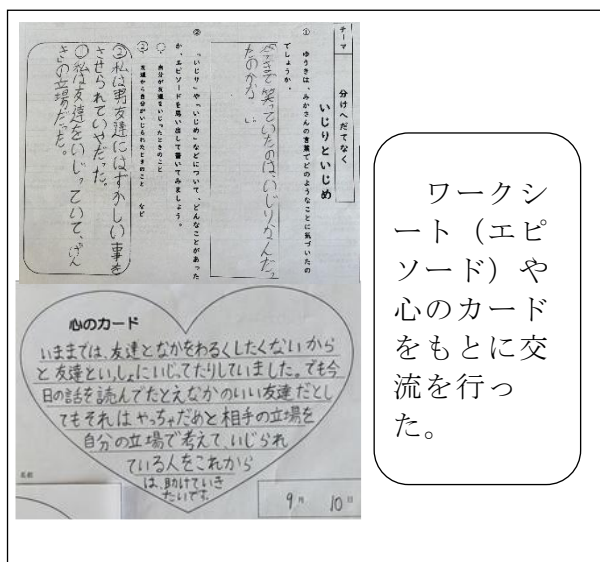
2 授業の展開

過程	主な学習活動	時間(分)	指導上の留意点
導入	1 「いじり」と「いじめ」についてのアンケート結果を確認する。 2 本時のめあてをつかむ。 みんなが気持ちよく過ごせるようにするためには、どんな気持ちが大切だろうか。	5	○ 「いじり」や「いじめ」に関する動画を事前に視聴したり、事前アンケートを活用したりして、これらについて意識をもたせておく。 ○ 学習の見通しをもたせるために、本時の学習の流れをホワイトボードに示す。
展開	3 みかの言葉で、ゆうきが気付いたことについて考える。 4 「いじりなら笑ってもいいのか」という言葉について考える。	15	○ 登場人物の気持ちを十分に考えられるように、教材文を事前に読ませておく。 ○ みかの言葉をきっかけに、ゆうきが気付いたことをワークシートに書かせる。
終末	エピソード活動 5 「いじり」と「いじめ」について、自分の考えを書き、交流する。 6 皆が気持ちよく過ごすために大切なことについて考える。 相手の気持ちを考えながら、誰に対しても分け隔てなく接することが大切。 7 「心のカード」を記入し、交流する。 8 教師の説話を聞く。	15 10	○ これまでの自分の経験を想起しながら、「いじり」と「いじめ」について考えさせる。 ○ 友達の考えと自分の考えを比較することで、自分の考えを深めさせる。 ○ 本時の学びやこれから気を付けたいことなどを「心のカード」に記入し、交流させる。



〈板書〉

登場人物のイラストや場面絵を用い、教材の主要場面を示しつつ、情報過多にならないように、シンプルな板書を心掛けた。



〈ワークシート〉〈心のカード〉



交流の場では、児童同士だけでなく、参観者にも話を聞いてもらおうとする児童の姿が見られた。

〈交流の様子〉

3 実践を終えて

(1) 成果

- ア 事前に教材文を読ませ、関連する動画を視聴させたことで、意欲的に学びに向かう姿が見られたり、本時の学習活動の時間を確保したりすることができた。
- イ ワークシート（エピソード）や「心のカード」を基に、自分の経験や考えを積極的に交流する姿が見られた。

(2) 課題

- ア 教材文を取り扱う時間を削ったが、児童の考えを深化させられるような話し合い活動を行うことができなかった。
- イ 交流の場では、児童同士で自分の経験を語ることはできていたが、そのときの気持ちやこれから気を付けたいことなどについて、互いに質問し合う姿はあまり見られなかった。